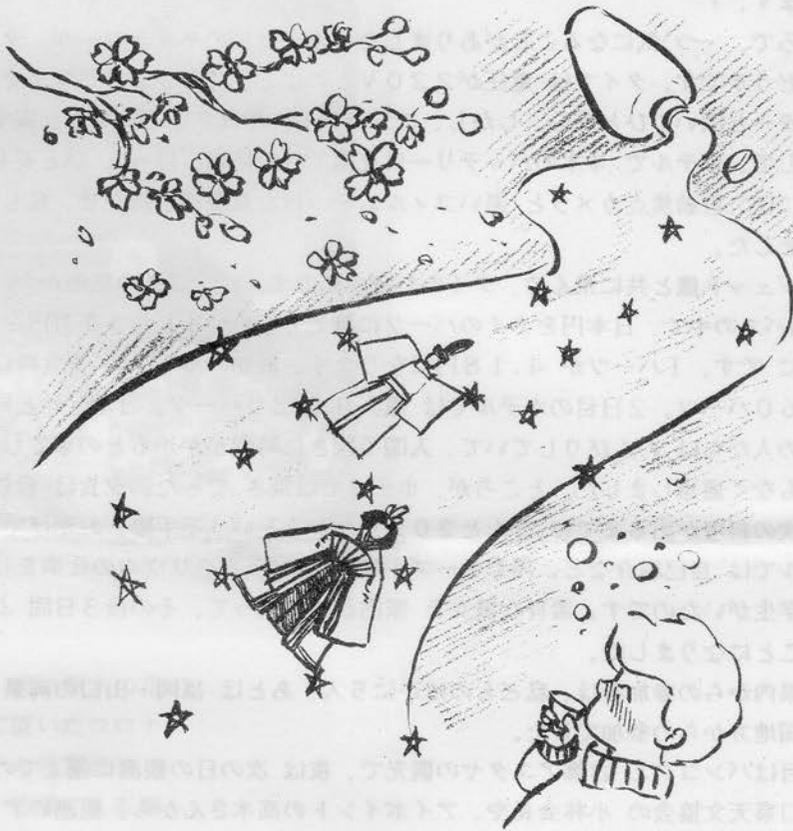


# 星屑

VOL. 252  
March '96



熊本県民天文台

タイ皆既日食観測ツアーに参加したことは、星屑第249号に「第一報」として掲載して頂きました。今回は その続報で、第一報に追加補足しながら、少し書いてみます。

部分日食は、沖縄金環日食の日などで、何度か見たことがあります。皆既日食はまだ一度も見たことがありませんでした。また、平成4年3月の定年退職までは、仕事を理由に、家内をほったらかしていたのを反省し、この際、奥さん孝行を兼ねて、一緒に初めての海外旅行、ということにしました。

さて、行くなら観測しなければ、そして、プラネタリウムにも役立つように、しっかり見てこなければ、と思ったのですが、何しろ 体力に自信をなくしている 昨今ですので、なるべく“荷物は軽く”をモットーに、8ミリ・ビデオに三脚だけ、ということにしました。その三脚も、ビデオ用の軽いものにしたのが、後で悔やまれるものになるのです。

ビデオカメラは、ソニーの最大20倍ズーム。テレビの画面で、太陽が たてに3分の1くらいを占める大きさです。(ただし、10倍ズーム以上は デジタルで、画質は少々低下します。)

ところで、一つ 気になることがありました。カメラ用のバッテリーが、タイで充電出来るかどうかです。タイでは 電圧が220Vとのこと、でも、240Vまで充電可能なアダプターと聞いてひと安心。しかし、コンセントの形は？など。でも、案ずるより 生むは易しで、ホテルで 4本のバッテリーに充電できた時は、ほっと ひと安心しました。

家内には、自動焦点カメラと 黒いフィルムをつけた双眼鏡を持たせ、私も時々使うことにしました。

話はジェット機と共に飛んで、タイのお金の話です。バンコクの空港から ホテルまでの 貸切バスの中で、日本円をタイのバーツに替えてもらいました。1万円を 2,390バーツに です。1バーツが 4.18円になります。最初のホテルの 夕食時に注文したコーラが、60バーツ。2日目のホテルでは 瓶入りで 20バーツ。日本と殆ど同じでした。

タイの人たちは のんびりしていて、入国手続きに時間がかかるとの事でしたが、それほどでもなく通過しました。ところが、ホテルでは驚き でした。夕食は 最初に前菜のサーモン。次の料理が出るまでに なんと20分もかかるという不手際。おかげで、10人のテーブルでは 自己紹介など。同じテーブルに 将来プラネタリウムの仕事をしたいという女子大学生がいたのです。素朴な彼女を 家内が気に入って、その後3日間 よく一緒に行動することになりました。

熊本県内からの参加者は、私どものほかに5人、あとは 福岡・山口の両県を主に、九州と中国地方からの参加でした。

2日目はバンコクと 古都アユタヤの観光で、夜は 次の日の観測に備えてのミーティング。山口県天文協会の 小林会長や、アイポイントの高木さんから、観測のアドバイスなどがあり、観測気分が盛り上がってきました。

3日目の朝は 3時半起床。3時50分から朝食。準備をして 外へ出ると、頭上にオリオン座、シリウスから 下に目を移すと、真っ白に輝くカノーパス。高度は約20度。熊本では 見られない光景です。

4時50分に出発して 北へ172キロ、途中で真っ赤な日の出と 青い空に勇気づけられました。大洪水のあとが残っていて、気の毒な思いがしました。ナコンサワン市内のバチャヌーコ中学の校庭に着いたのは、日食が始まる2時間前でした。

下の写真のような 広い運動場を、自由に使えるという 恵まれた観測地です。ビデオカメラで 太陽撮影のテストを始めます。NDフィルターは、400, 8, 4の3枚重ね。テーピング・テープでレンズの前に貼りつけるだけです。露出をオートにすると 太陽はオーバーになるので、手で調節するのです。日食が始まると、20倍ズームで 太陽像を捕まえ、手で追いかけます。三脚が弱いため 下手に動かすと ぶれるのです。しっかりした三脚か 赤道儀がほしいところでした。

皆既の始まりが近づくと、あたりが騒然としてきました。パーン、パーン!と 銃声が響きます。そして、1回目のダイヤモンド・リングが出たところで、最高潮に達します。

その後、皆既日食は1分44秒。意外に長く感じたのですが、ビデオカメラを 動かすのに一生懸命で、肉眼で見たのは わずかの時間でした。それも、第一報で書いた通り、持っていた眼鏡もかけずに、金環食に見えてしまったり、また、慌てて 2回目のダイヤモンド・リングが見える前に、数秒間フィルターを被せてしまったりしました。

それにしても、初めて見た皆既日食の感動は、一生忘れられないでしょう。

その感動を、私は 毎日のように脳裏に蘇らせることの出来る職場にいます。

熊本博物館では、プラネタリウムの冬の番組で、タイ日食を扱った“星のかくれんぼ”というタイトルで、シナリオは 浅川さん(会員 No366)が、うまく書いてくれました。スライドはビデオテープからのコピーです。どうぞ、ごらんになって下さい。

写真・上……高い樹木の花を  
手前に置いたコロナ

撮影：永井留美子

写真・下……皆既に入る直  
前の観測地風景

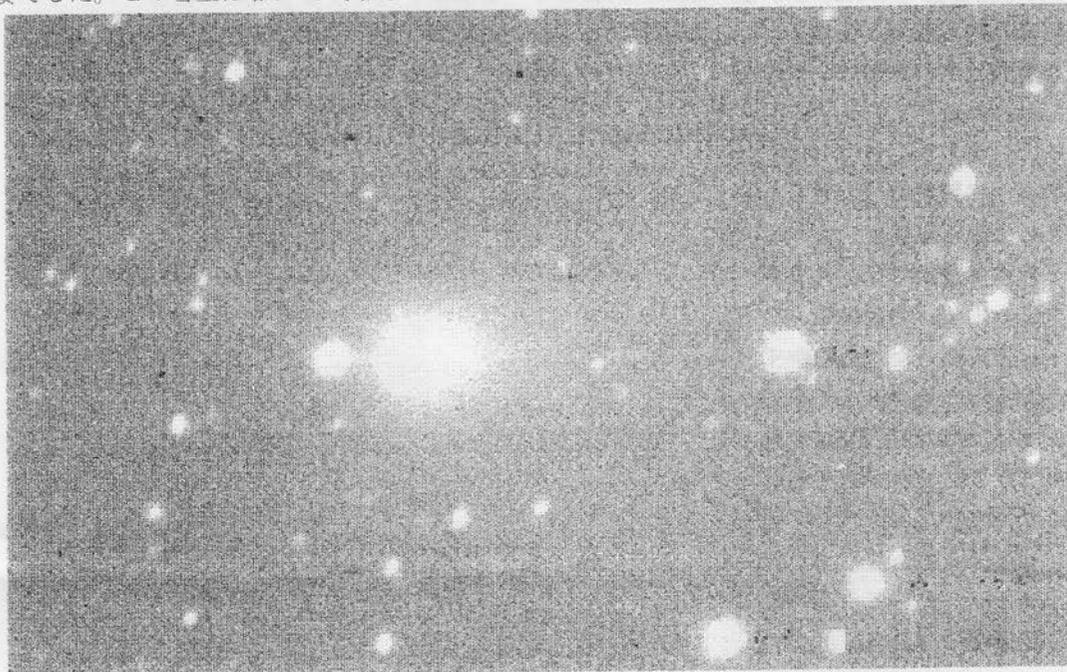
撮影：永井 剛



既に巷には「世紀の大彗星出現!!」という文字が踊るようになりました。今年から来年にかけての天文界はこの話題で持ちきりとなるでしょう。もし、ヘール・ボップ彗星が本当に明るくなれば、まさに彗星の年となって語り継がれることになるでしょう。

ヘール・ボップ彗星出現以後、彗星界はにわかに活気づき、観測者は本当に寝る暇がなくなってきました。このページも次々に出現する彗星のため書き直しばかりのうれしい悲鳴です。では、最新の彗星情報をお伝えしましょう。

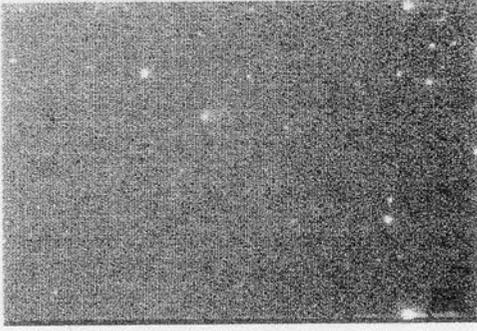
1996年1月31日、鹿児島県の百武氏は昨年末の C/1995 Y1 に続く 2 個目の新彗星 C/1996 B2 をてんびん座に発見しました。熊本はその頃悪天候で観測できませんでしたが、この彗星は無事確認され 2 夜の観測からとんでもない軌道が計算されました。2月3日朝、ようやく熊本も晴れて、この星の観測に成功しました。集光のしっかりした大物彗星の片鱗を既に見せる姿でした。この彗星は春に 0 等級まで明るくなると予想されます!!



☆ C/1996 B2 (Hyakutake) 1996年2月2.85日 UT 120秒露出 41cmL F5 TELERIS-400

この星はこのまま明るくなると肉眼彗星になると予想されます。そして、3月下旬から4月上旬にかけて地球に 0.15AU ほどまで接近しますので、光度は 2~3 等級となって夜空を 1 日に 10 度以上の高速で移動します。しかも、北極に近い北の空を縦断するのでからこれは壮観でしょう。その昔イアラス・アラキ・オルコック彗星が地球に接近したことがありますが、今度の場合は彗星自体の規模が全く違いますから、ハレー彗星以来の見物となるでしょう。まだ彗星を見たことがないという貴方、今度はチャンスですよ。春休みの夜を彗星で楽しんでください。彗星は、その後 5 月に近日点を通り、その頃太陽のそばで 0 等級になりますが、北半球からでは見にくい位置へと移動してしまいます。お天気がいいといいですね。

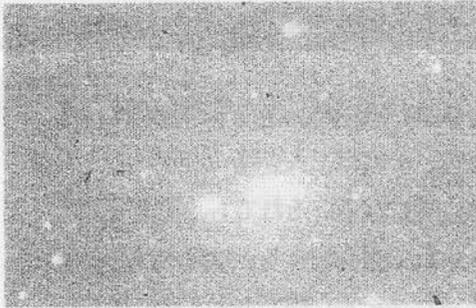
☆ P/1996 A1 (Jedicke) 27-01-19



今年の彗星第1号は、昨年と同じく Spacewatch Telescope で Jedicke が発見しました。発見光度は、17等と報じられましたが、KCAOでの観測では16等で西に尾がありました。この星は、1995年10月に近日点を通過していますので、今以上明るくならないでしょう。

近日点距離が6.84AUという遠い彗星ですが、離心率が0.4の軌道が計算されて、新しい短周期彗星とわかりました。次の回帰で観測されると周期彗星番号が与えられることになります。衝付近で観測に都合のよい位置です。

☆ C/1996 B1 (Szczepanski) 29-01-96



アメリカ、ヒューストンの Szczepanski が8等級で1月27日にM101盛運のそばに発見した新彗星です。KCAOでは29日にこの彗星を観測しました。画像はこのときのものです。

素直な円形ではない核近傍の姿から、地球に近いことを想像させましたが、計算された軌道は地球に近いことを示していました。

近日点通過が2月6.5日ですから発見からこのころにかけてが最も明るい時だったのです。でも、どうして今まで発見されなかったのでしょうか。

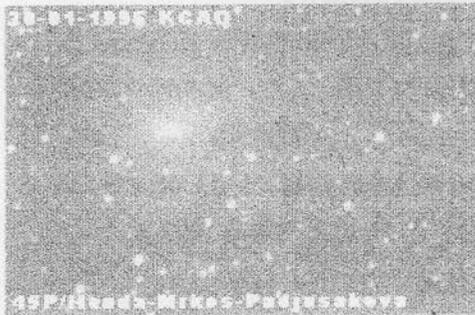
☆ C/1995 Y1 (Hyakutake) 30-01-96



2月24日の近日点に向かって徐々に光度をあげてきました。この画像は、1月30日に撮像したのですが、このころの光度は8.7等でした。

この星は、太陽との離角にほとんど変化がない動きをしていて、ずっと夜明け前の東天に位置します。近日点通過の頃は、地球との距離も少し小さくなりますので、光度は7等級になると予想されます。同じ名前の付いた二つの彗星が仲良く、しかも明るく見えるというのはそうそうあるものではありません。これは、是非「二つの百武彗星を見る会」でも開催してほしいですね。

☆ 45P/Honda-Mrkos-Padusakova



明け方の東天にまわった本田-ムルコス-パジュサコバ彗星の姿です。全光度はまだ7等程度と明るいのですが、地球に近いので大きく広がって CCD では暗くなってしまいます。

この画像は、1月30日の撮像ですが、眼視によるコマは10'以上あって、CCDのフレームからはみ出していました。つまり、左の図はコマの中の明るい部分を捉えていることとなります。これでは光度は測れませんね。この星は、地球に接近するため動きが早く、2分露出で既にトレイルしています。

連続天文台小説

# シリウスよりも輝いて

第二話 二度目の出会い

まちゃゆき いわなが

熊大天文研究会は写真展が終わってしまうと、急に星を見にいけなくなっていた。これは、受験生が大学生になると全く勉強をしなくなる現象と似ていた。だが、そんな生活に沢木信雄だけはのどの渇きにも似た奇妙な感覚にさいなまれていた。11月のあの夜以来彼の心のなかにはもう一度白石めぐみに会えるとしたら、それは二人を唯一つなぐあの天文台に他ならないという思いが全く無かったといったら嘘になる。それでも、現実では恋愛小説のようにそう簡単に運命の赤い糸にたぐりよせられて再会できるとは沢木自身おもってはおらず沢木らしいといえば沢木らしいことであった。そんな彼でも天文台に来るという行為はあの日の胸の高鳴りが夢ではなく現実のものであったということを強く再確認させてくれ、写真展前にはよく足を運んでいたのであった。天文台に行かなくなったことから彼の心のなかにあった確かな恋がいつしか雲のようになくなって幻の恋になってしまうのでは？あるいは思い出にしたくないといった不安とあせりがここ数日の彼の心の渇きの原因であった。それはついに彼を行動へとかきたてた。イブを二日後に控えた金曜の夜沢木は岩永に電話をかけていた。「岩永一、今から久しぶりに天文台に星を見にいかん？」さり気ない会話から入りついに本題を自然体を装い沢木は切り出した。「えーっ、俺明日も運営で行かんばけんなー。」天気予報で天気が夜から崩れることを知っていた岩永は沢木の気持ちを知ってか知らずか嫌そうに答えたが、沢木がチョコパを条件に挙げた瞬間商談は成立した。

二人が天文台に到着すると入口前には熊本県民天文台が誇る金曜のプリンスことJの愛車がパジェロミニが止まっていた。どうやら今夜は開台しているようだ。沢木が入口の戸を開けようとした時、急に沢木の視界に鉄の扉が迫ってきた。次の瞬間「ゴッッ」この世のものとは思えないような鈍い音が広大な荒野に響きわたり沢木信雄(20)は地面に倒れこんだ。仰向けに倒れた沢木は「外部から強い打撃を受けた場合目の前に星が見えるというマンガの現象は本当だったのか」こんな時に訳のわからないことを考えていた。彼が本物の星を見ていたのはいうまでも無いことであった。傍らでは一人の女性が絹を裂いた

ような声で何やら騒いでいた。「大丈夫ですか？どうしよう私、ごめんなさい、本当にごめんなさい。」その瞳からは大粒の涙が溢れ、その光輝くものは彼女の頬をすっと流れ落ちた。岩永はその女性があの白石めぐみであることを思い出した。一ヵ月位前に天文台に遊びにきた地元のS保育園で働く保母さんである（第一話参照）。「ごめんなさい、大丈夫ですか。」彼女の涙は止まらない。「大丈夫です、全然。気にしないでください。」と岩永が元気に応えると傍らから沢木の蚊の鳴くような声が聞こえた。「岩永、めぐみさんが見えるよ、夢見てんのかなあ俺。」「ああ、これは夢さ、だから思い切ってぶっちゃけちゃえ!」「め、めぐみさん、君のな（みだはとともすてきだけど僕は笑顔のほうが好きだな）」ようやく沢木は意識がいっきりにしてきて台詞の途中でハッと口を閉じた。いつもは熊大天文研究会には不釣り合いなほど爽やかな沢木がリングのように頬を紅潮させ、ハートが震え血液が燃え尽きるほどヒートしていた。「チッ、あっ沢木俺氷を持ってくるから。」岩永はそう言い嘸しVサインをしながら天文台の2階へと昇っていった。そのVサインには実は「チョコパ2杯だかんね!」という意味が隠されているとはこの時の沢木はまだ知らなかった。

岩永が昇ってくると上から一部始終を見物していたらしく口元に軽く笑みを浮かべながらJがつぶやいた。「若いねー」「そうですねー、でもまぶしいですよ。」Jと岩永は遠い昔に無くしてしまった大切な何かを懐かしむように少し哀しげな瞳で何処までも深く、すいこまれそうな空を眺めていた。ただ眺めていたかった。血の一滴までも凍らせようかという冬の寒さではあったけれども胸の奥から何か熱いものがこみ上げ、北風も程よい心地よささえ感じさせてくれた。いつしか静寂に包まれたこの空間には時の流れなど存在しなくなっていた。「あっ、雪」気がつくといつのまにやら空には雲が立ちこめ城南の町に初雪を降らせていた。「シリウス、まだ消えてませんよJさん、ほら」岩永がかろうじて見えているシリウスを指で指し示した。「消えるわけないだろ、あれは心の灯火なんだから…」

つづく

二人の恋の行方は？

Who is J?

岩永は本当に二十なの？

こう御期待

※この物語は **フィクション** です。

いやー、毎日寒いですねえ。でも、もうすぐ春です。この間（この原稿作成中）雪、2月2日の日だったですかねえ。北にお住まいの方に言わせると「なんばしよっと!!!」と言われそうですが、道路に雪があって、凍結状態。バイク怖かったー。バイクだと、足が寒くて寒くて、寒いなんていうもんじゃなくて辛い、の一言です。でも、星屑も3月号。春はすぐそこです。春といえば、は、な、み。花見と云えば、お酒、お酒と云えば、宴会じゃー。誰か段取りしてー!!!

## ☆ 3月の天文現象&行事 ☆

5日 満月（18：23）

9日 ※トークアバウト（天文台にて 20：00～）

13日 下弦（02：15）

16日 月の距離が最近（366290Km）

19日 新月（19：45） 土星が合（04：13）

20日 春分の日 春分（17：03）

27日 上弦（14：52）

28日 月の距離が最遠（404468Km）

※1月からトークアバウトの開催曜日が変更になっております。毎月第2土曜日になります。運営委員の方、参加しやすいと思いますので、是非お越し下さい。

※※事務局が博物館から天文台へ変更になっております。郵便物等は天文台か各担当者へ送るよう宜しくお願い致します。

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1996年 3月号 通巻252号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-42

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作